

## 【概要報告】美濃市 将来の学校のあり方検討会（第4回）

日時：令和6年2月29日（木）19:00～

会場：美濃市防災中央コミュニティーセンター

司会：美濃市教育委員会 教育総務課課長補佐

### 1 挨拶（美濃市教育委員会 教育長）

この一年間、視察や会議の開催に理解と協力をいただき、本当に感謝したい。

先週でしたか、NHK で不登校についての特別番組が放送された。それは、100 年以上続いた日本の学校教育を続けていくことが難しいという内容だった。私たちも、そのことを踏まえて今取り組みをしているところだ。

ただ、学校や地域、行政の力ではどうにもできないことの一つが子どもの数で、少子化が驚くようなスピードで進んでいる。美濃市で本年度産まれる子どもは 65 人ほどになりそうだ。

今後、どんな学校をつくっていったらよいか、将来を見据えて考えなければならない。困ってから「さあどうしよう」では手遅れになる。今このタイミングで話し合うことが必要だ。ぜひ議論を深めてもらえるよう、よろしく願いたい。

### 2 前回検討会の概略報告と資料提案（事務局）

#### (1) 答申作成の流れ確認

この会議の集約 → 座長による加除修正 → 委員送付&意見聴取 →  
事務局にて修正案作成 → 座長の最終確認 → 答申完成&提出

#### (2) 答申原案作成の経緯説明

第3回検討会の意見を中心に、第1回検討会からの意見を総合的に集約して作成した。

### 3 検討

1 今日の検討会に提示された答申原案は、これまでの検討会の意見を集約して3つに分類されている。それについて問題はないか。（委員同意）同意が得られたので、この3つの構成で答申をつくる。学校規模についてご意見を出して欲しい。

2 質問だが、原案の文中「仲間関係が選択できる」は何を指すのか。

「教室内、学校内に、仲間関係をつくることのできる同級生が何人もいる。一部の子ども達との関係がこじれても他に仲間がいて孤立しないということ。」

（事務局回答）

3 「選択」という言葉より、「仲間関係が変化したり新たな仲間をつくったりできる環境」に変えた方が良い。今の説明のような言葉を使ったらどうか。

- 4 「自分で何とかする力を育む」や「たくましく成長すること」は、人間関係のいろんな問題を、仲間関係が変化していく中で解決することを指しているという理解で良いか。
- 5 人間関係以外にたくましく成長することは何かあるのか。
- 6 学力についても、仲間関係の中で考えを交流して高めることができる。
- 7 「成長とともに仲間関係が変化したり選択したりできる環境は」に続く部分は「さまざまな感性や考え方にふれ合う機会を生み出す要因になる」とした方が良い。
- 8 これらの積み重ねが「自分で何とかする力」を育むことになる。よって、児童生徒がより多くの仲間と関わることを保障する学校の再編成を検討する…とした方がよい。
- 9 学校規模の項目で、「仲間」という言葉があるが、自分の感覚では「友達」「グループ」のような「狭い仲良し集団」のイメージにつながってしまう。
- 10 「仲間」というのは「子どもの中の人間関係」かな。でも、先生や地域の人たちもその中に入るのかも知れない。
- 11 ここの項目では、子ども関係に焦点を絞って「仲間」という言葉で提案されたのではないか。
- 12 子どもの中の人間関係を「仲間」と表現している。でも、子ども達だけの人間関係ではないし。
- 13 その点は保留にしたい。
- 14 子ども達の「自分で何とかする力」を育てたいという思いで再編成を考えているので、子どもに焦点を当てて「何とかする力」を考えようとしている。
- 15 美濃市中で 60 数名の出生数ならば、否応なしに 1 校にするしかないという状況に来ている。今年生まれた子たちは 5~6 年したら小学校に上がる。来年 100 名を超える子どもが生まれたりすれば話は別だが、この先は人口が 4 割も減って 12,000 人になるような見通しもある。子どもが生まれてこないことが大きな問題で、今年生まれた子の数が今後維持できるかということ、それも難しいのが現実だ。そうなると、学校は小学校 1 校、中学校 1 校か、小中学校で 1 校か分からない

が、もう検討の余地すらないように感じる。

- 16 そうすると、再編成を検討するというより、再編成を早急に進める必要があると言いつつということか。
- 17 私はそう思う。6年後の現実なのだから。
- 18 その通りだと思う。「再編成を早急に検討すべき」もそうだけれど、「再編成もやむなし」と書いても良い。仕方がない。
- 19 「早急に検討」より、「早急に押し進める」ということか。
- 20 そう。「再編成もやむなしという状況に来ているため」という表現がよい。
- 21 危機的な状況になっているという表現にするということ。1の結びのところはインパクトのある表現にした方がよい。
- 22 危機感や不安感を感じる言葉とともに、その後にはポジティブな言葉も大切にしたい。少子化を止められないのは確かだけれど、移住者が住みたいと思うとか、もう一人子供を産もうとか思える町に近づくような学校再編成にしたい。
- 23 項目の1については早急にやる必要があることを打ち出し、項目2や3の内容として、今出たような内容を盛り込みたい。
- 24 一般的に考えると、一クラスに20~30人いることが一つの方向であると思われるが、集団の中で生活することが苦手な子どももいる。そういう子のことも考える必要がある。1校に統合する考え方もあるが、1人でも2人でも活動できるような学校のことを検討する必要がある。今は少人数対応の配慮を、学校の中でしている。その内容を検討会答申に含めるかどうかも検討したい。
- 25 美濃市の場合は、まず検討会の結論のようなものを出しておいて、委員の意見については答申の結論を具現していく段階で参考にする。今出た「集団になじめない子をどうするか」という意見は、この後再編成を具現していく段階で考えていくことになる。答申の参考資料の中に入れることを検討したい。
- 26 答申の骨子は原案にある3つとする。その骨子の部分を今検討している。骨子の項目2の検討へ移って良いか。意見を出して欲しい。

- 27 項目1の最後のところと関連して、教科担任制を導入することで担任以外の先生と関わることができる。いろんな先生と関わることのできる学校は魅力がある。自分を理解してくれる先生との出会いは大切。また、美濃市ならではのものを使った校舎建築も考えたい。
- 28 和紙を使った学校とか、森林資源もある。
- 29 他市では、素敵なお小學校に通わせたいということで、減ってきた人口が増えた話を聞いていて、若い世代がその学校の校区に家を建てているという。学校の校舎をよくするのは大事な視点となる。
- 30 こういう学校だったら行きたいという気持ちも大切。教科担任制の導入もよい。
- 31 校内環境については、「子どもの目から見た良い環境」の表現を取り入れたい。親としてはそこを大切にしたい。一言だけでも良いので、子ども目線の言葉を加えたい。
- 32 親は子どもが楽しく学校で過ごし、喜んで学校へ行ってくれることを願う。教科担任制や9カ年を見通した教育というのを視察で行った学校で見た。そこで自分のやりたいことを追求している姿を見て、良いと思った。美濃市もそういう取り組みを始めている。好奇心を満たす教育が大切にできると良い。
- 33 子どもに軸足を置いた表現にしつつ、こんな学校だと良いということが大人にも分かる表現にしたい。「美濃市では一人ひとりの興味関心に応じた探求型学習ができるよ」というような表現にしてはどうか。項目2の前段を特にそうしたい。後半は、大人目から見た表現で良い。市民の方が答申を見たときに分かる形にしたい。
- 34 項目3の校外環境についてはどうか。
- 35 答申そのものが、少子化傾向への対策のようなネガティブなイメージを抱きやすいが、視察した学校は「他地域からの移住者を取り込んで子どもを増やす」のような積極的な姿勢が見られた。理想を目指す明るい表現を大切にしたい。
- 36 具体的にどこをどうしたら良いか。
- 37 具体的には分からない。

- 38 学校を一つにすることで、地域の人たちがみんなそこを見て見守っていけるのは安心できる材料になる。それを魅力にこの地域にみてもらえると良い。
- 39 学校規模のところに、「再編の時期が来ている」と書かれている。このことは、答申文の最後の部分に書いてはどうか。
- 40 校内校外で素敵な学校や地域環境を考えている。そのためには再編成が必要であるという結論が良い。項目2や3の後に項目1をもってきて、結論として再編の必要性がくると良い。見出しも「〇〇」についてというような柔らかさがあると良い。
- 41 全体を通してどうか。
- 42 美濃市の中で完結する教育を目指しているのではなく、グローバルな社会の中で教育を進めることになる。グローバルとローカルを合わせたグローカルのような、視野は広く活動は身近で具体的なことが良い。ずっと美濃にいたってはならない訳ではなく、美濃に貢献できる人材になればよい。誇りをもって活動している地域の人に関わることで学習でき、自己肯定感が高まれば良い。
- 43 校内環境の前段の教育環境のところに、グローカルな人間像やふるさとを大切に  
する人間像を描ければよい。
- 44 子どもに軸足を置いた表現にすると、こういうニュアンスは出せる気がする。
- 45 どういう子供になって欲しいかを、分かりやすい言葉で表現できると良い。
- 46 校内環境は量が多めになるかもしれない。ここに自分で何とかする力も入るのかもしれない。流れとしてはこれが良いと感じる。
- 47 校外環境の子ども達の活動とは、具体的にどんなことなのか。
- 48 前回、放課後の時間に学校へ遊びに来て、そこでも遊べる環境にする意見がでた。
- 49 文面では分からないが、学校が地域の子どもの遊び場になるという理解ができた。
- 50 松森のコミュニティーセンターの活動には中有知に人に限らず、市外からも参加している。小さな活動にも、多くの人に興味をもっていることが分かる。学校がこうなるというような大きなことについては、地域の人々にも分かってもらおうこ

とが大切。

- 51 学校に行きづらい、学校へ行くには敷居が高いという意見が前回もあった。それを打開する学校地域連携活動という言葉は分かりづらいかもしれない。市民が読んで分かる言葉にしたい。お子さんがいない家庭の方にも答申は読んで欲しい。
- 52 ここに通わせたいという思いになって欲しい。そして、その噂を聞いた別の人が美濃市の答申を見るところというようなことになると良い。
- 53 学校に人々が集まる機会があると良いし、そういうスペースがあることも大切。お年寄りの会とかができるスペースで、学校へ行くのとは違う感じで集まってくるようにしたい。
- 54 では、確認します。答申の構成は、校内環境から始めて、次に校外環境が来て、そして学校規模についてまとめるようにすることで良いか。(委員同意)項目1の校内環境については、前段の4行部分は子ども目線の表現とし、どんな楽しい学校を目指しているのかが一般市民にも分かりやすい表現とする。後段部分はこれで良いか。(委員同意)地域の方が来られる学校にすることは校外環境になるのかもしれないので検討する。項目2は、表現を平易にすることで市民の皆さんにも目指す学校のイメージがもてるようにする。項目3の学校規模については、「学校の再編もやむなし。早急に進めていく時期に来ている」というような、インパクトのある終わり方とする。こういくことで良いか。(委員同意)細かな表現については事務局と相談して決めていく。これで良いか。(委員同意)それでは事務局に進行をお返しします。

<事務局より>

次年度も検討会は継続する。委員の継続をお願いする方もある。その際はよろしくお願いしたい。

【終了 20 時 20 分】